

〔選択科目：泌尿器科〕

1．研修内容

研修期間は1ヵ月を基本とするが8ヶ月まで選択可能である。泌尿器科でよく遭遇する疾患の診断法や基本的な治療方針、および導尿法や尿路管理法を研修する。主に入院患者を主治医と共に受持ち、また外来診療を通じて泌尿器科診療の基本を研修する。

2．一般目標

プライマリーケアおよびスクリーニングを含む泌尿器科外来診療を適切に実施する能力を養う。入院診療においては、主治医として泌尿器科領域の基本的臨床能力を持ち、全身および局所管理が適切に行えることを目標とする。

3．行動目標

- (1) 正確かつ要領の良い問診を行い、それを記載できる。
- (2) 局所および全身の身体所見をとり、記載できる。
- (3) 診療において患者の心理に配慮できる。
- (4) 良好な医師・患者関係を結ぶことができる。
- (5) よく遭遇する泌尿器科疾患の知識獲得を積極的に行う。
- (6) 血尿や排尿障害のスクリーニングが的確にできる。
- (7) 尿閉と無尿の鑑別ができる。
- (8) 受持ち患者の問題点や経過を、文献的考察を加えて発表できる。

4．研修目標

- (1) 経験した方がよい主要疾患
尿路結石、泌尿器悪性腫瘍（腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍）、前立腺肥大症、尿道狭窄、急性腎盂腎炎、神経因性膀胱、腎後性腎不全、急性陰嚢症、尿失禁
- (2) 研修すべき主な診断・検査法
X線検査（KUB、IVP、DIP、RP、AP、膀胱造影、尿道造影、CTなど）、
内視鏡検査（尿道膀胱鏡検査、尿管カテーテル法）、超音波画像診断法
（腎、膀胱、前立腺、陰嚢内容）、核医学画像診断法（レノグラム、腎シンチ、骨シンチ、副腎シンチ）、MRI診断、前立腺生検、尿流測定
- (3) 研修すべき手技・治療法
導尿法（経尿道的、恥骨上穿刺）、膀胱洗浄法、尿路結石による疝痛発

作の治療法、尿路感染症に対する治療法

5. 研修実績

- (1) 入院患者数：40 - 45 人 / 月
- (2) 外来患者数：90 - 110 人 / 月
- (3) 手術件数：10 - 25 人 / 月
- (4) 剖検：0 - 1 例 / 月

6. 1~8 ヶ月間研修での研修内容

- (1) 経尿道的手術（膀胱癌、前立腺肥大症、膀胱結石、尿道狭窄症）の補助
- (2) 鏡視下内視鏡手術（ミニマム創手術）の助手
- (3) 尿路結石に対する体外衝撃波（ESWL）治療の他院での見学
- (4) 前立腺生検の介助
- (5) 指導医介助の元での陰嚢内手術の執刀
- (6) 泌尿器科カンファレンスでの画像診断の実践と手術適応・術式選択の研修
- (7) CPC・院内研修会での症例のまとめとプレゼンテーション
- (8) 東京地方会での症例報告の発表